

平成 29 年度第 2 回川崎市産業振興協議会会議録

1 開催日時

平成 30 年 3 月 14 日（水）10 時～12 時

2 開催場所

川崎市産業振興会館 11 階第 6 会議室

3 出席者

(1) 委員（13 名）

杉浦会長（慶應義塾大学名誉教授）、鹿住会長代行（専修大学商学部教授）、沈委員（日本女子大学人間社会学部教授）、岩井委員（川崎商工会議所常務理事・事務局長）、大西委員（神奈川県情報サービス産業協会理事）、岡田委員（横浜銀行常務執行役員川崎支店長）、館委員（川崎地域連合事務局長）、辻田委員（川崎工業振興倶楽部会長）、堤委員（川崎信用金庫常務理事）、出口委員（川崎市商店街連合会青年部長）、沼委員（川崎市工業団体連合会理事）、星野委員（神奈川県中小企業家同友会理事・たま田園支部幹事）、安永委員（川崎市観光協会観光推進部長）

(2) 事務局

経済労働局長、産業政策部長、国際経済推進室担当課長、産業振興部長、都市農業振興センター所長、次世代産業推進室長、労働雇用部長、企画課長、企画課職員

4 議題（公開）

- (1) 中小企業活性化専門部会での施策検証の状況について
- (2) 平成 30 年度経済労働局主要事業について

5 傍聴者

なし

6 会議の内容

産業政策部長

(平成 29 年度第 2 回川崎市産業振興協議会開会を宣言)

(会議成立及び会議公開、傍聴人の有無(今回は無し)を確認)

経済労働局長

中小企業活性化条例の施行や産業振興プランの策定から 2 年が経過し、この度、産業振興プラン第 2 期実行プログラムの策定を行おうとしているところである。

この 2 年間でオープンイノベーションや I o T ・ I C T ・ A I、働き方改革等の言葉が頻繁に聞かれるようになるなど、産業を取り巻く状況に変化が見られる。この間、中小企業活性化条例や産業振興プランにご意見を頂戴し、特に専門部会委員におかれては現場視察をしていただいているほか、所管課からの説明も聞いていただくなど、多大なご協力を賜り感謝申し上げます。本日も忌憚のないご意見を賜りたい。

産業政策部長

(新委員を紹介)

(議事進行を杉浦会長に依頼)

杉浦会長

「議題 1 川崎市中企業活性化専門部会での施策検証の状況」について、事務局から説明をお願いしたい。

企画課長

(資料に基づき説明)

杉浦会長

ここまでの説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

岩井委員

内陸部操業環境保全対策事業の 30 年度予算について伺いたい。防音・防振・脱臭といった間接的な部分への投資はなかなかしづらいものであり、本制度は良いと思っている。今後も継続してほしい。

鹿住会長代行

ご存知だと思うが、国の創業補助制度が変更となり、対象が創業支援を受けている事業者のみとなった。拠点がないと申請するのも難しくなったため、体制整備は良いと思っている。

起業者の状況は変化しており、自宅で、一人で立ち上げる方も増えてきた。このような場合、自己資金での起業が可能となるため融資は不要で、よって精緻な事業計画書の作成も不要となる。まず初めにチャレンジショップのようなところで販売を行い、その後プランを作成するといったケースもある。また、女性については、起業すれば良いのか、それともソーシャルビジネスを行うのが良いのか、どこかの企業に勤務するのが良いのかなど、自らの希望を叶えるために何をすれば良いのかが分からないケースも多い。そのような場合、起業・創業スクールに通うよりも先にキャリアカウンセリングを行った方が良いなど、個々により状況が異なる。

次世代産業推進室長

若者の起業も応援していきたいと考えている。成功することも重要だが、失敗から学ぶことでリスクを低下させることも重要である。多様なサービスメニューを提供していきたい。若者だけでなく高齢者や女性なども支援していきたいと考えている。

鹿住会長代行

福岡市は先進的な取組を進めており、視察すると良い。

次世代産業推進室長

福岡市には行かせていただいた。

沈委員

外国籍の起業支援をどのように行っているのか伺いたい。また、昨日行われたという外国人留学生向け企業合同就職説明会について、分野ごとの状況を把握しているなら教えてほしい。例えば介護福祉分野への関心が高かったなどの傾向はあるのか。中国では国全体で医療福祉に取り組んでおり、現在開かれている全国人民代表大会でも方針の一つとして示された。急速な展開が図られるようだ。また、教育領域においても、日本や他国と連携し、短大や専門学校において国際人材を育成しようとしている。優秀な人材を輸出し、人材交流を行うことを考えているようだ。そのような人材を川崎の企業が雇用できれば、海外展開を行う際に役立つのではないか。

次世代産業推進室長

外国籍の方の起業については、就労ビザや長期的な住まいの確保、銀行口座の開設等において日本人の起業とは異なる面があり、福岡市や東京都では専門人材を配置して対応している。東京都の支援拠点は丸の内内にあり、川崎から20分ほどしか離れていない。そのような至近距離で同じようなものを作るのもどうかと思い、どのような機能を担うのが良いのか、もう少し研究したいと考えている。

労働雇用部長

外国人留学生向け企業合同就職説明会について、参加企業を募集したところ23社の手が上がった。今回は福祉系企業の出展はなかった。情報通信業が最多で、他に流通業などが出展していた。

外国籍の介護福祉人材については、健康福祉局を中心に取り組んでいる。法改正により外国人の福祉分野での雇用は増えていくものと考えている。学校間連携にも取り組んでおり、今後も関係局とも連携して取組を進めていきたい。

杉浦会長

最初に雇用した人がうまくいくかどうか重要。良い効果を生むには初期の努力が求められる。成功例を生み出せば、その人がSNSで発信することで最大の広告塔となってくれる。ここ1～2年が勝負ではないか。

大西委員

外国人採用は増えてくるものと考えているが、企業側としてはどうやって受け入れていけば良いのか悩んでいる。国によって仕事に対する慣習も異なり、例えば日本では定年まで同一の企業で働き続けるケースが多いが、外国では違っている。相談窓口があれば良いのだが。

労働雇用部長

ここ1～2年で企業の関心が高まったように感じている。同様のお話を伺うようになったため、昨日の合同就職説明会前には外国人の採用についてセミナーを開催し、多くの企業の参加を得た。今後、充実させていきたいと考えている。

舘委員

勤労者福祉対策事業における生活資金貸付について、外国人も利用可能なのか。また、ローンを組むことはできるのか。

労働雇用部長

対象を働いている方としており、外国人も含まれていると思うが、金融機関の審査を通ることが条件となる。

岡田委員

何年間、日本に滞在するのを見ることがとなり、ハードルは高いものと思われる。

舘委員

出身企業には外国人労働者が多数おり、実際にそのような声が出ている。例えば配偶者が日本人であればローンを利用することができるのだが、夫婦どちらも外国人となると難しくなる。生活面でのサポートがあれば良いのだが。

岡田委員

勤め先や配偶者の家族などのサポートがあり、日本で生活していくのだという姿勢が見えれば事態は変わるのだが。市と連携できればハードルは下がるものと思われる。

労働雇用部長

行政としても金融機関と相談しながら進めていきたい。

堤委員

民間金融機関は法的な縛りが強いため、例えば特区的な取組で進めるなど行政に後押ししてもらえるとありがたい。企業も生き物で、中には息絶えるものもある。そのような中で経済の活性化を図るには、全体のパイを増やす、つまり起業・創業を支援するか、今ある企業をケアし、存続させる、つまり事業承継を支援するかの方策が考えられる。川崎であれば創業や投資を呼び込みやすいので、産業振興特区化してはどうか。

個別事業を縦割りで行うのではなく、チェーン化して施策を進めてほしい。

出口委員

就業が難しい点では障害者も外国人と同じだが、例えば授産施設の利用者に資料作りを手伝ってもらおうと、特殊な集中力をもって仕事を進めてくれる。適材適所で障害者人材も活用できると良い。

労働雇用部長

障害者の雇用については健康福祉局の障害者雇用・就労推進課が進めているが、精神障害者についても法定雇用率に含まれるようになるなど状況も変化しているので、今後さらに連携を深めていくようにしたい。

星野委員

高齢者の創業支援についても触れたい。中小企業が家業から企業に向かっていく時には管理機能の強化が必要となるため、経験豊富な高齢者を活用できると良いと思うのだが、俎上に出てきていない。

労働雇用部長

働き方改革の推進には多様な人材の活躍を促す必要があると考えている。その中には当然高齢者も含まれており、高齢者が埋もれることのないようにしていきたい。

出口委員

かわさきマイスターの中で既に退職されている方に先生役をお願いし、セミナーなどで講義いただければいいのではないかと検討してほしい。

堤委員

海外展開関連事業について。ドイツでプロモーションを行ったとのことだが、なぜドイツだったのか。

国際経済推進室担当課長

これまで成長市場としてアジアをターゲットに取組を進めてきたが、一方で成長分野での取組も進める必要があるとあり、成長分野の一つである医療分野で世界最大の展示会が開催されることから、それを足掛かりにしてプロモーションを行った。

堤委員

iCONとも関係があるのか。

国際経済推進室担当課長

本市では3つのイノベーションに取り組んでおり、その1つであるライフイノベーションには医療分野が含まれている。

産業政策部長

キングスカイフロントとの関連も多分にある。キングスカイフロントでの取組をきっかけに、ドイツ・ミュンヘンのバイオクラスターマネジメント組織「Bio^M」と健康・医療・福祉分野を中心とした経済交流に関する覚書を締結している。

産業振興部長

冒頭に岩井委員からご質問のあった内陸部操業環境保全対策事業の30年度予算について確認できたのでお伝えしたい。内陸部の操業環境保全対策が70,000千円、騒音対策に9,000千円、その他オープンファクトリー等の取組を合わせ計84,730千円となっている。

杉浦会長

では、次の議題について事務局から説明をお願いしたい。

企画課長

(資料に基づき説明)

杉浦会長

ここまでの説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

安永委員

身の引き締まる思いで説明を聞いていた。宿泊先不足の解消を目指すホテルシップの説明があったが、東扇島に着いた外国人は実際にはどうするだろうか。富士山や日光などどこにでも簡単に行けてしまうため、地元は警備代や清掃代だけ持たされるということになりかねない。地元飲食店で利用できる食事券を発行し、例えば川崎デーのようなものを設けてその日に使ってもらい、観光をしてもらうなど、注意していかなければならない。

工場夜景について、定期ツアー開始後8年が経過したが、今でも早い段階で予約が埋まるなど人気を博している。例えば羽田空港国際線ターミナルを活用するなど、外国人への発信方法を考えていかなければならない。

オリンピックまでには羽田空港から橋が架かるため、川崎はまさに水際作戦を行う必要がある。例えばドラえもんを活用するなど、羽田空港に到着したお客様への演出が行えたら良い。お客様に川崎を訪問いただきたい。カウンターにチラシやパンフレットを置いておく程度ではもったいない。

オリンピックではレガシーを残すのが鉄則であり、オリンピックが開催される2週間のためだけに動くのではもったいないと考えている。

産業振興部長

外国人観光客のニーズを把握する必要がある。国のビッグデータを活用しているほか、2月17日に開設したかわさききたテラスではコンシェルジュが「富士山にはどのように行くのか」「この付近で、30分程度で何か見ることができないか」といった問い合わせに対応しており、これらの声なども分析したうえで市内の活性化につなげていきたい。観光協会とはこれまでも連携しているが、引き続きの協力をお願いしたい。

安永委員

訪日外国人全体でみると、訪問地で最も多いのは浅草だが、平均年齢が29歳と若いフィリピン人については、一番行っているのは新宿や池袋である。理由はフィリピン人の好みの食べ物屋が多いからだそうで、SNSを通じて日本にいるフィリピン人が集ま

ってくるそうだ。どのような国の方を川崎に呼んで働いてもらうのが良いのか。飲食店等も含めた環境づくりが重要である。

コンシェルジュには非常に期待している。先日の韓国・平昌オリンピックでは日本語で対応してくれるボランティアが案内したそうで、自国の言葉で案内してもらえるのは心強いだろう。外国語が堪能な大学生ボランティアや、土日であれば一般人にも手伝ってもらえたら良いのではないか。

沈委員

外国人の立場で話をさせてもらうと、新大久保には現地の人が集まっているという安心感がある。言葉が通じるのは安心感につながる。川崎で既に生活しており、愛着心をもっている外国人に川崎の魅力を発信してもらえば確実なのではないか。

着物体験について、先日訪問した京都では着物を着ている方が多かったが、川崎はあまり似合わない気がする。川崎にあるものを発信すれば良いのではないか。生田緑地は特に欧米人や 50 代以上のアジア人に魅力がある。一口に外国人といってもタイプは異なるので、丁寧に企画するべきである。

これまでは「重工業のまち」とのイメージが強かった川崎も福祉機器のイメージを広げているところである。福祉を一つのキーワードにして、ホテルや観光地で体験してもらったらどうか。

出口委員

外国人観光客に注目が集まりがちだが、日本人の観光とも両輪ではないか。

産業振興部長

産業観光については日本人が多い。

出口委員

国内観光についても取組を進めた方が良いのではないか。日本人向けコンテンツが外国人に魅力に映ることもあるので、あまり限定しない方が良いでしょう。

産業振興部長

民間事業者とも連携し、日本人観光客に対する取組も進めていきたい。

安永委員

修学旅行の誘致にも取り組んでいるところである。指導要領に基づき体験型の旅行が重視されるようになったため、工場見学では足りなくなった。生徒が実際に手を動かせるかどうか問われている。

川崎の公害克服に向けたこれまでの努力はものすごいと思っている。アジアは欲するのではないか。例えば公害克服コースを設け、工場を回るようなツアーを組み立てても面白いと思う。

岡田委員

キングスカイフロントには最先端の企業が入居しており、また、国立衛生研究所も立地するなど、期待をしている。世界との入口として外国人が期待と思うような、魅力あるまちにしていけるのではないか。

安永委員

殿町にはANA ケータリングセンターがあるが、大勢が一度に防護服を着て視察を行うことができないため、訪問者が機内食の試食やDVDの視聴などを行えるよう、入口に大部屋を設けている。

堤委員

昨年、川崎フロンターレが優勝したが、優勝パーティーが渋谷で行われたのは残念だった。小杉にコンベンションホールができるということだが、1,000 人入るのが果たし

て良いことなのか。単独事業では採算がなかなか取れないだろう。とはいえ、キングスカイフロント入居企業が学会を東京で開くのは寂しいと思う。いま川崎で黙っていても人が集まるのは等々力陸上競技場だと思うが、メインスタジアムの改修はどう動いているのか。

産業政策部長

市民20万人からの署名を受け、メインスタンドをヨーロッパの競技場を模したプロ仕様に改修する予定である。加えて野球場を整備しており、バックスタンドの仕様は検討中である。

キングスカイフロントを周遊する羽田空港からのバス便を設ける予定で、観光客が立ち寄れるような場所の設定も検討しているところである。

星野委員

今回、知的財産戦略の改定にも携わったが、国内の大企業だけでなく海外の大企業ともつながれるようになれば、とてもワクワクするような話になるのではないか。

杉浦会長

本日の協議会はこれで閉会とする。事務局から連絡があればお願いしたい。

産業政策部長

次回協議会は8月頃を予定している。また案内を差し上げるので、その際は御出席をお願いしたい。

以 上